

チームメディカル (TM) 最新の状況 2019/5/29

第2回TMミーティング〔5月29日(水)〕開催

東京女子医科大学付属成人病医学センター副所長・教授 岩崎直子氏講演

～医師を目指す後輩の皆さんへ～

本校の卒業生でもある東京女子医科大学付属成人病医学センター副所長 岩崎直子先生に「医師を目指す後輩の皆さんへ」をテーマに講演していただきました。岩崎先生は先ごろ日本女医学会吉岡彌生賞を受賞され、東京女子医科大学において診療・研究と後進の指導に忙しい毎日ですが、医師を目指す後輩のために、医師になること、医師の仕事の社会的意義、日本の現状、女性医師について、などお話しいただきました。

—自己紹介 医師になることがゴールではない—

医師免許取得後も、内科認定医、総合内科専門医、臨床遺伝専門医、医学教育専門家、産業医などの資格を取得し、自分自身をブラッシュアップしている。その間、学位取得やシカゴ大学への留学、研究を続けることによって、いくつかの賞や研究奨励賞を受賞した。

—なぜ医師を目指したのか—

医師である父親が、患者さんたちからの信頼を受け、地域の人々の役に立ち、感謝されている姿を見て。

—医師になってよかったこと—

経済的自立、性差による差別が少ない、一生働ける可能性、そして医療において社会の役に立つことができる、の4点を挙げるができる。また、医学研究を続けることは楽しい、シカゴ大学での研究を経て、2型糖尿病の感受性遺伝子が21番染色体にあり、その領域に存在するKCNJ15遺伝子の発現を抑制することによってインスリン分泌が回復、血糖値が下がることを明らかにした。このように、それまでなぜだろうと思っていたことが分かると、大きな感動につながり、次の疑問や研究につながる。

—医師のあるべき姿—

臨床能力(医学的知識)、コミュニケーション技術、倫理的・法的理解を土台に卓越性、人間性、説明責任、利他主義の実践によって、プロフェッショナリズムを確立できるように、生涯を通じて自己研鑽を継続すること。

—最近注目した新聞記事—

5月24日の全国紙に掲載された記事「診療所都市偏在を是正」。記事によると、厚労省は医師が多い地域での開業には在宅医療や休日・夜間の診療などを担うことなど、条件を厳しくして地方での開業を促す、とあった。すでに、フランスでは、医師の専門科ごとの人数、勤務地域などを国が決めており、成績によって希望が受け入れられるシステムがある。一人の医師を育成するために多額の税金が使われていることを考えれば、今後は国(厚労省)がこれまで以上に規制を設けていくのかもしれない。

—女性医師の現状—

現在日本の女性医師の割合は2割程度で、OECD加盟国の中でも最下位である。しかし、近年の医学部への受験や入学者の数を考えると、この先変化が出てくるのではないか。そして女性が医師として働き続けるためには、働き続ける意思、家族の理解、上司・職場の理解、心身の健康が必要と思う。

—私が言いたいこと—

- ・大切な事は表に出てこない
- ・自分で探して初めて判る
- ・自分自身でしっかり考えることが大切
- ・自分の気持ちを大切に

—生徒の質問に答えて—

研究テーマを決めるときには、独創性が問われる。その分野において、ほかの研究者がどの程度まで明らかにしているのか、自分の考え方はそれらと何が違うのか、を意識する。

総合内科専門医は知識のアップデートが必要。内科には様々なカテゴリーがあり、受験資格を得るためには定められたカテゴリーごとのサマリーを提出することが求められる。専門医の知識の更新は、学会に出席して新たな知識を学び、専門医更新のための問題において一定以上の成績を得る。

アカデミアにおける視野を広げるために、一度は海外で学問に接し、勝負してほしい。

